

市政 報告

発行:長島有里事務所
(電話兼FAX)046-876-5802
E-mail
yuri_nagashima@yahoo.co.jp



長島有里

37歳

逗子市議会議員 3期目
立教大学法学部卒
横浜市立大学大学院修了
会派: 市政クラブ
<http://nagashimayuri.com>
ブログ更新中

【保育園の待機児童対策について】

保育園に入所できず困っている方が書いた匿名のブログが話題を呼び、保育園の待機児童問題が今またクローズアップされています。

私は、かねてから女性が安心して子育てと仕事を両立できる環境整備を要望してきました。

逗子市の待機児童数は、ここ数年最大30名で増減していますが、多い年では申込みをしたが、希望する保育園に入所できなかった方が約90名近くまでのぼりました。本市としては、市有地を無償貸付することで保育園の民間誘致を行い、今年の4月には念願の新保育園が開設されます。

このことにより、待機児童数はかなり減ることが予想されますが、それでも今後、子どもを産んだ後も仕事を続ける女性は増えることが予想されるため多様な受け皿を整備しておく必要があると考えます。

小規模保育園の増設や、認定こども園の開設など今後も要望を続けてまいります。

女性が働きやすく子どもを産みやすい環境を整えること。家族が育児と仕事を両立できるような社会をつくるためにこれからも声を挙げていきたいと思っています。



足かけ3年。ついにオープン!
桜山の逗子なないろ保育園

【病後児保育料金値下げへ】

子どもを保育園に入れて安心したのもつかの間働くママに次に襲い掛かる試練。それは子どもの病気。小さいうちは、本当に子どもはよく熱を出します。保育園は子どもの熱が37.5度を超えると休園もしくは保護者の呼び出しがあります。

実家の親が近くに住んでいたり、誰か頼れる人がいればいいですが、それでもサポートの手はあればあるほど助かります。逗子市では2年前からファミリーサポート事業で病後児保育の預かりを開始しています。これまで利用料金が1時間900円と通常の利用料より高かったものが今年からは1時間辺り300円となる制度になりました。それでも38度を超す熱では預けることができないなど、まだまだ利用しやすい制度になるには改善が必要です。ぜひ多くの子育てママパパに利用していただき改善要望をお寄せいただければと思います。



【子どもの学習支援スタート】

子どもの貧困は6人に1人といわれ、親の経済格差が子どもの教育格差へとつながることで貧困が連鎖してしまうことが問題となっています。

経済的に厳しい家庭の子どもたちへの学習支援を要望してきましたが、今年から元教員の市民の方がボランティアで子どもたちに勉強を教えられる取り組みがスタートしました。

もともと、地域の子どもたちのために何か役に立てることはないか、と考えてくださっていたとのことで、本当にありがたいことと思います。

予算化も含めて事業が継続するよう見守りたいと思います。

【図書館、パブリックサービスへの指定管理を否決】

行財政改革の一環として公的施設の指定管理者制度の導入が進められています。もちろんそれ自体は必要なことだと考えます。

しかし、導入の際には、市民サービスの質の向上につながる事、さらには運営費のコスト削減につながるなど、市民にとって有益なものとならなければいけません。

この度、図書館を指定管理に移行し、指定管理者を(株)パブリックサービスにすることを目的とした議案が出されました。パブリックサービスはこれまで市内の高齢者雇用について一定の実績を挙げてきたものの、一社独占契約はコスト低減やサービスの向上につながりません。また、指定管理をしたとしても全体の運営コストがこれまでの直営とほぼ変わらないこと、具体的なサービスの質の向上が不明瞭であることがわかりました。

本会議での採決結果は一票差で指定管理の議案が否決され、直営が継続されることとなりました。

サービスとコストとのバランスを取りながらアウトソーシングを進めることには賛同しますが、適正な競争の原理の導入は欠かせません。以上のことから私は図書館のパブリックサービスへの指定管理には反対しました。



【シニア就労の受け皿を】

厚生労働省の発表によると日本の男性の平均寿命は80.21才、女性は86.61歳。男女とも人生80年時代になりました。退職をしても人生はまだ長いのです。

第2の人生をいかに充実して過ごすか。そのためには地域に戻ったときにやりがいとなる仕事や人とまた出会えることが大事なのではないか、と私は考えます。

逗子市のシニア就労の受け皿としては、(株)パブリックサービスがいわゆるシルバー人材センターと同様の設立趣旨として存在をしておりますが、加入率は0.52%とかなり低い状況。(逗子市の60歳以上人口約2万1,000人のうち社員数109名)

また市からの受託業務(指定管理業務含む)が約8割で年間約1億6000万円かかっていますが、業務内容は草刈りや駐輪場の管理など、ホワイトカラーの受け皿になっているとはいえません。

キャリアカウンセラーや求職者と企業をつなぐマッチングアソシエイトをおき、新しい魅力的な仕事をつくりだし、逗子の多様なスキルを持ったシニアの方が働けるような環境をつくりだす努力が必要ではないかと考え、議会でも提案しています。

市民のみなさんから寄せられたご要望

◎保育園の空き状況が知りたいです。
→子育てポータルサイト『えがお』に掲載してあります。
<http://www.city.zushi.kanagawa.jp/egao/>

◎ゴミの有料化で分別が細かくなり、間違えたゴミが置きっぱなしになってしまう。缶やビンの回収BOXが欲しい。
→家庭金物やアルミ缶、スチール缶を分ける回収ボックスは今年モデル事業として100か所分予算化されています。



ご意見、ご要望はこちらまで

Fax 046-876-5802

E-mail vuri.nagashima@vahoo.co.id



必ず
拝読します！

【編集後記】

親の所得格差が子どもへの教育格差につながってしまうという指摘があります。
私は一昨年、NPO法人を立ち上げ、児童養護施設の子どもたちの就学支援をお手伝いしています。やはり大学に進学するのに、高額の入学金が払えず、勉強はできるのに進学を断念せざるを得ない子どもがいることがとても残念です。
奨学金も、有利子のものが約3分の2を占めており、借りられたとしても多額の借金を学生のうちから背負ってしまふような制度になっています。
日本を除くOECDの加盟国33か国のうち、大学の授業料が無償の国は17か国あり、残りの16か国でも給付型の奨学金があります。
どんな家庭環境に生まれても、将来を担う子どもたちが十分な教育を受けられるよう社会を変えていきたいです。